

ビヨントゥモロー
東北未来リーダーズサミット



- 被災地の高校生70名による
東北の未来への提言 -

東北を元気にするビジネス、仕事の在り方
～農業における今後の雇用のあり方について～

グループ1

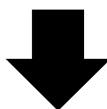
上澤知洋、菊地将大、菊地真未、坂本佑季、
高橋奈々美、中野春佳、三浦悠

問題点

- ①農業に従事する若者が少ない
- ②TPPによる外圧
- ③放射能による東北の作物のイメージダウン

解決策①

農業休暇

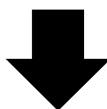


例えば
1週間に1日休むと
企業の税率がA%減



解決策②

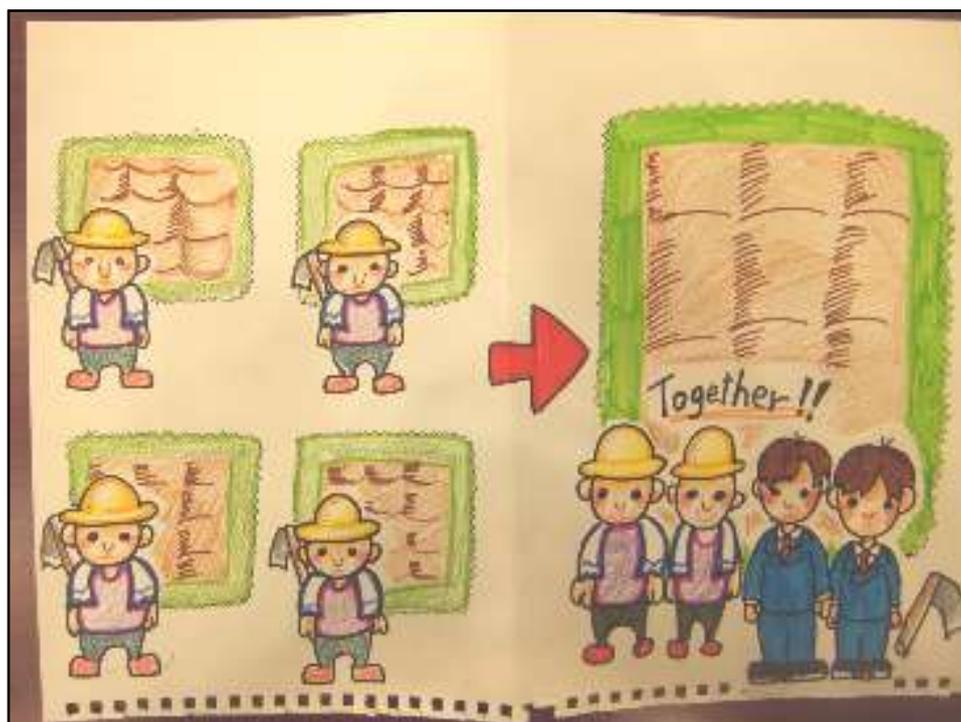
共同農業



個人ではなく地域全体で
農業に従事する。
(例) 農業を株式会社として立ち上げ
地域の人を雇う

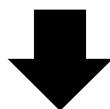


国からの補助



解決策③

学校教育



学校で放射能の値を測定し
東北の農作物のイメージアップ
授業の一環として農業体験してもらう

実施スケジュール

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1次アンケート		Plan					内閣府へ 法案提出	
2次アンケート 広報						Do		
2次アンケート							国家予算案会議	
集計								
提言まとめ								
エキスパート 助言依頼								
提言広報								



役割分担

アンケート (学生、農家、企業)	I期 各自家族や友達に(30人程度)	
	II期 全員で	
集計	真未、春佳、悠	
まとめ	佑季、奈々美、春佳、真未	
専門家への インタビュー	将大、悠、知洋	
広報	I期 佑季、知洋	II期 奈々美、将大
政府へ提出	全員	

提言発表「ビジョンストック」

2班

加藤英介 関本将乃 穀田龍二
伊藤美晴 佐藤可奈子 増子光希 船越絵雅

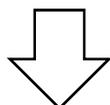
いきなりですが質問です！

この中で、将来的に地元就職しようと思っている
方は、手を挙げてください！！

ちなみに2班では、1人だけでした

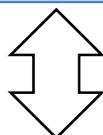
問題点

震災で地域の若者離れが深刻化してる



どうして？

地域に魅力が少ないから

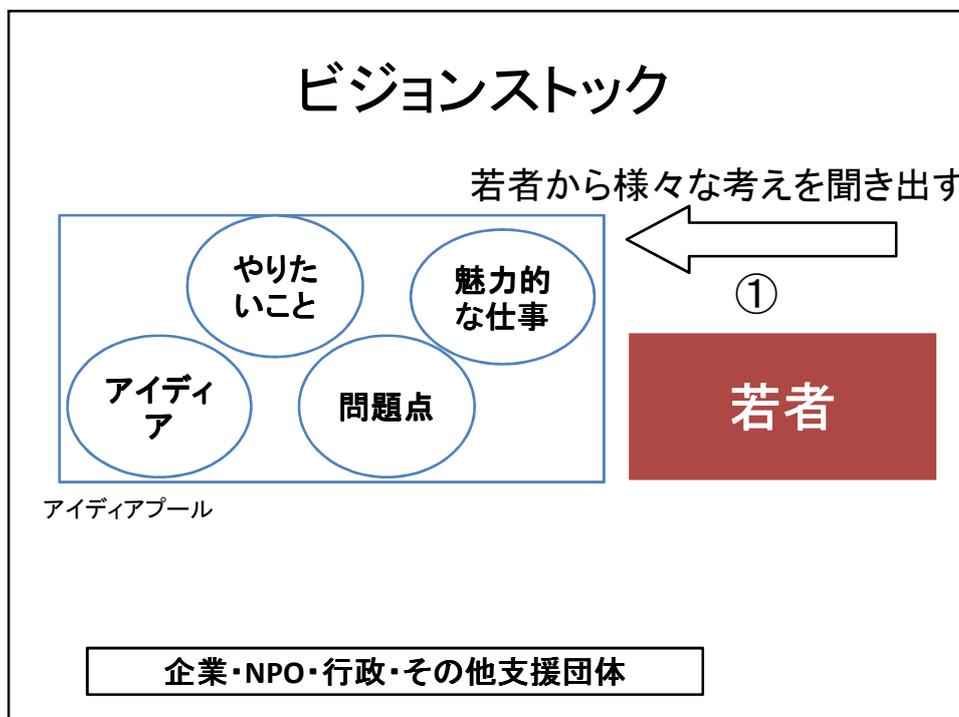
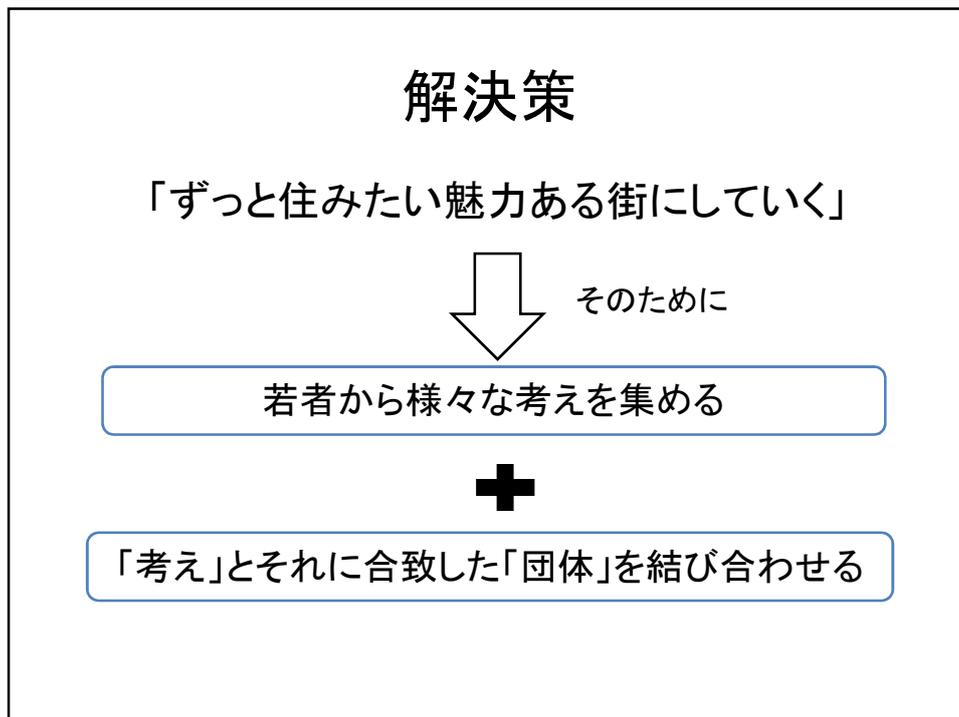


でも

今後、被災地の復興には若者の力が必要!!

具体例として

友人が部活動を続けられなくなり、やむを得ず都会へと転校していった。（穀田）



ビジョンストック

アイデアプール

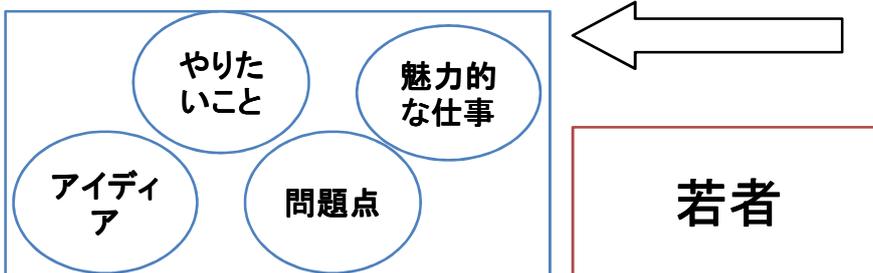


② 集めた考えを分野ごとに分けて整理

企業・NPO・行政・その他支援団体

ビジョンストック

アイデアプール



③ 考えとそれに合致する団体を探し、その2つを結び付ける

企業・NPO・行政・その他支援団体

具体的な役割分担

- ① **考え集め係**……加藤・穀田・伊藤
地元の気仙沼の高校生に将来の夢についてインタビュー
- ② **管理係**……佐藤・増子
特に、職業についての考えを選び出し、まとめる
- ③ **結びつけ係**……関本・船越
商工会議所や企業にプレゼンテーションし、
学生との結び付きを作る

東北未来リーダーズサミット
～東北を元気にするビジネスや仕事のあり
方～

3班

伊藤大二郎 倉本知邑 佐々木瞳
佐藤拓磨 高橋真彩 千田綾太
新妻聖

東北の復興に必要な産業



→観光業に焦点を当てる

しかし...

震災により観光業はダメージを受ける

例)

- ・観光資源失われる
- ・宿泊施設が使えない
- ・交通インフラがダメージを受ける



BEYOND
Tomorrow

そこで...

新たな観光資源をつくる

例)モニュメント、記念館



世界遺産登録を目指す！



23

情報発信こそ大事！！！！

●インターネット

→ホームページ、YouTube、Twitter、Facebook

●雑誌発行

●署名運動

BEYOND
Tomorrow

●プロジェクトメンバーの役割●

●インターネット(ホームページ、YouTube、Twitter、Facebook) :

モニュメント、防災システムについて発信。
HP作成チームは1ヶ月でHPを作成し、
週一で更新をしていきます。
また、HP上で募金活動を行います。

福島担当: 新妻

宮城担当: 佐藤

岩手担当: 伊藤



●プロジェクトメンバーの役割●

●広報:

募金活動で集めたお金を使用して
広報を行います。
2ヶ月に1回雑誌を出版します。
お年寄りを対象とした雑誌も作成します。

担当: 高橋、倉本、千田、佐々木

●プロジェクトメンバーの役割●

●署名運動:

街頭で週一回署名の呼びかけを行います。
全体的な総会を月に数回Skype等で
ミーティングを行います。

担当: 全員

27

最終目標として...

2016年に予定されている
日本でのサミットを東北で開催する



サミットのテーマは
“防災”

※自分達もスタッフとして観光案内を行う

『 強い繋がりを目指す
First step. 差の解消』

チーム4

阿部菜穂 遠藤崇行 菊池翔太 菅原彩加
福田順美 藤田真平 山内留衣

1. 支援に関する需要と供給の「差」

2.地域情報の「差」

3.心のダメージの「差」

《 Solution 》

経験/情報/想いを共有する



本当の被災者支援へつなげるスタートとなる

《 Action 》

前期

・ HPを作る

中期

・ 共有の機会を設ける

後期

・ 共有した感想をHPに挙げていく

《 Vision 》

差 → 絆

誰にも届く情報伝達

グループ5

遠藤亮子、大橋一揮、日下マリア、
佐々木ひとみ、中谷匡美、日高慎、森竜二

遠藤亮子さんの体験談

問題点

どうして支援物資などの情報がまわってこないのか・・・

情報がすみずみまで届いていない

- 近所の人バラバラになった
- パソコンが流された
- ネットを見ない人もいる etc

解決案

スーパー、コンビニ、学校、バス、温泉などの
多くの人が集まる場所で、もっと情報を
発信していったらどうだろうか

具体的なプロジェクト案

「高校生の情報宅急便」

役割分担

1. 情報収集係
 - 行政(役場)から
 - NGOから
2. 情報の選別、まとめ係
3. 各機関への交渉係
4. 音声の制作係
5. 全体の指示係
6. 本部への連絡受付係

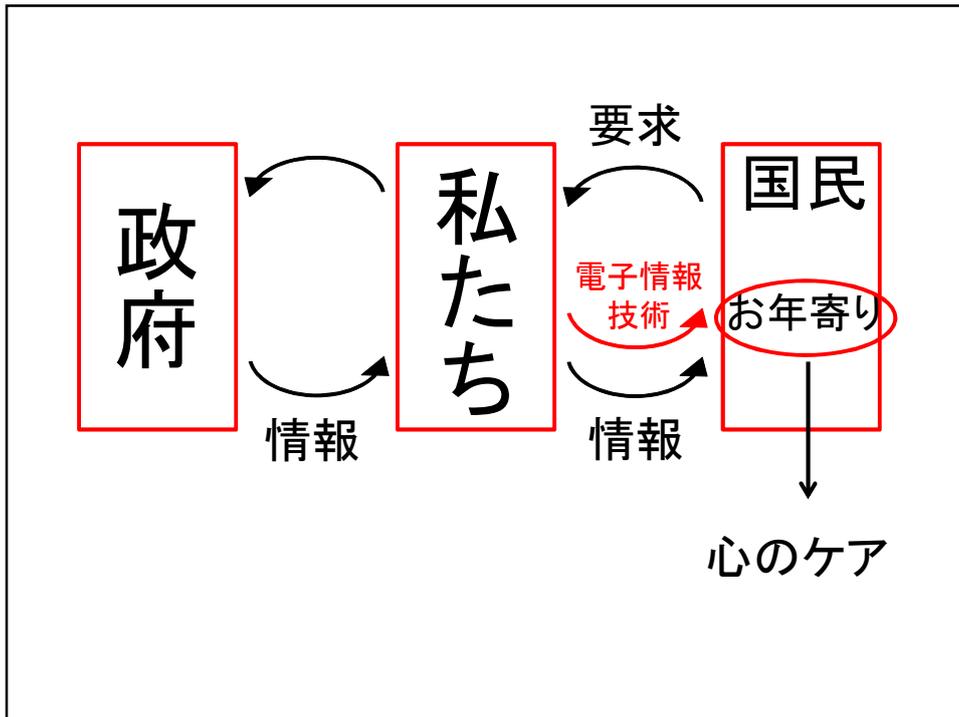
私たちの被災者支援への提言

6班

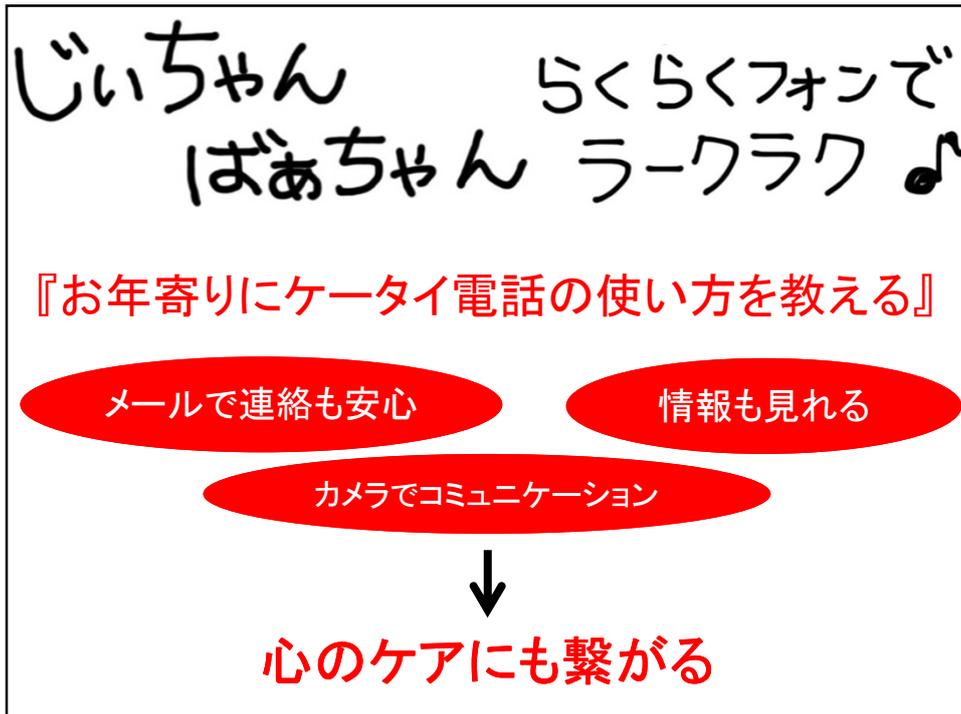
阿部里紗／小野寺結衣／小山恭文
佐藤楓／菅野翼／長岡輝／松本薫

送り手と受け手の 情報の不一致

1. 私達のもとまで物資が届かなかった
2. 正しい情報がないと不安になる
3. いつまで仮設にいればいいの？



じいちゃん
ばあちゃん
らくらくフォンで
ラークラク ♪



プロジェクト概要

- 対象地域例: 宮城県亘理町
- 時期: 春休み・夏休み・冬休み
- 役割: 運営・調整担当: 佐藤
ケータイ担当: 長岡
メール担当: 松本・小野寺
カメラ担当: 阿部
ウェブ担当: 小山
まとめ・スケジュール担当: 菅野

プロジェクト概要

- 対象地域例: 宮城県亘理町
- 時期: 春休み・夏休み・冬休み
- 役割: 運営・調整担当: 佐藤
ケータイ担当: 長岡
メール担当: 松本・小野寺
カメラ担当: 阿部
ウェブ担当: 小山
まとめ・スケジュール担当: 菅野

被災地に寺子屋を

~ BEYOND Generation ~

チーム7

竹山まい 松田孝晴 今井友理恵 元川裕太 石川ひとみ 伊藤裕太 菊池春花

問題点

- ✓ 被災地の子供達の
 - 判断力、思考力不足
 - ト라우マ

解決策

- ✓ 被災者による
 - 遊びを通じた学びの場
 - 心のケアをする場



寺子屋

具体案

- ✓ 被災3県に1つずつ設置

Ex.) 児童センター、小学校

- ✓ 各自の役割分担

BEYOND
Generation

～ 世代を超えた絆 ～

世代を超える作戦

グループ8

今井千寿瑠、岩崎開、遠藤見倫、尾形沙樹、
小野寺栄、佐々木優介、杉山隼人、

安全なまち

人と人がつながるまち

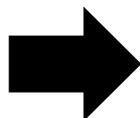
- 避難の知恵を共有
- 復興への情熱
- 精神的な支え

課題

- インフラで防ぎきれなかった
- 自分たちで命を守らなければならなかった
- 個人個人での知識不足や意識の低さ

解決策

- 自分たちの経験を形にする！
- 映像、イベント、ネットを通じて広める！

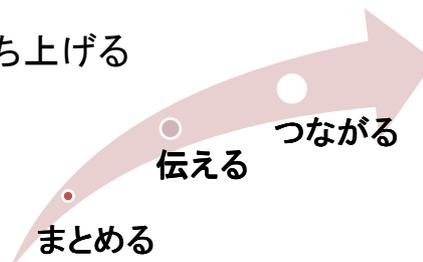


若者へ

- 災害の経験が少ない
- 今後の未来を担うのは若者
- 世代を超えてつなげる経験

世代を超える作戦内容

- 経験や情報をまとめる
- 楽しく発信する
 - ホームページを立ち上げる
 - 経験談
 - ショートムービー
 - Q&A
 - イベント情報
 - イベント企画
 - 印刷



発信のアイデア

- ジュニアリーダーとの連携
 - ちびっ子避難マラソン大会
 - 防災フェスティバル
- お祭りの場所で発信
- ライブ活動
- 出版、チラシ印刷、町内会報など

役割

- イベント担当
 - 尾形沙樹
- 海外広報担当
 - 小野寺栄
- サウンド担当
 - 佐々木優介
- HP担当
 - 今井千寿瑠
- コンテンツ担当
 - 遠藤見倫
 - 杉山隼人
 - 岩崎開

提言発表 —安全なまちづくり—

9班: 西城国琳 佐々木奈菜
佐藤慶治 鈴木聡
目黒妃呂美 千葉真英
布田ちはる



①問題点

“情報と教育”

①問題点

全ての人に正確な情報が届かなかった
(情報)

情報が届いたにもかかわらず、
先入観や知識のなさから誤った判断をし
てしまった
(教育)

②解決策

- デジタルだけでなく
アナログなアプローチ
- 個人・組織各々への働きかけ
- 瞬時に情報をビジュアル化

③具体的なプロジェクト案

- “呼びかけ団”プロジェクト
- “伝承鳩”プロジェクト

みんな逃げっぺ！プロジェクト ～安全なまちづくり～

チーム10
遠藤有紗 小澤由佳 佐藤滉
高橋聡 長谷川健太 柳澤一紀
梁田麻佳



体験①

・小学生や高齢者、障害者の避難が大変だった。

理由

津波が来るタイムリミットと
避難所までの距離



体験②

・どこに逃げるべきかわからなかった。

理由

情報が入らなかった。

情報が錯綜していた。



コンセプト

『逃げやすい街づくり』



解決案①

・避難ルート、避難場所の整備

→案内板(ユニバーサルサイン)の設置



解決案②

・防災教育の充実

→地域ぐるみの防災訓練とコミュニケーション



解決案③

・GPSと緊急地震速報の活用

→緊急地震速報とマップ(現在地と近くの
避難所へのルート案内)の**連携**



解決案の実現に向けて

- ①案内板を作り、貼りまくる
- ②学校・企業・地域住民での合同避難訓練の呼びかけ
- ③GPS(マップ)+緊急地震速報のアプリ開発の提案



解決案の実現に向けて

・月に1回、第1土曜日まとめ役に報告

→実施地決定(東海・東南海地方)

→(案内板のサンプルと合同防災訓練の企画を持って)全員で現地入り

→自治体・企業等と相談



解決案の実現に向けて

→①と②をその地域で実施(案内板貼りまくりと合同防災訓練)

※時間差(まず①をやり、1カ月後に②を)

→結果を見て改善→実施→改善→東北へ応用

解決案の実現に向けて

- ・下調べ: 避難所を調べる
(遠藤、佐藤、柳澤)
- ・製作: 案内板の製作(絵・ラミネート)
(小澤、高橋、長谷川)
- ・まとめ: 全体の指揮、自治体や参加者への確認
(梁田)
- ・案内板の貼り付け・提案・防災訓練
(全員)



以上

